

# ARTS for HOPE 活動報告書

## 2016年8月2日～8月5日

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

①8月3日／熊本県益城町 中央小学校避難所  
「Happy Doll Project」の実施

熊本地震からまもなく4ヶ月。5月と6月に続き、益城町と西原村を再訪しました。大規模な仮設住宅が建設され、避難所も縮小傾向にある益城町。「どきんかなる。ゆっくりと頑張っていきたい」と、仮設住宅への移転を待つ皆さん。「フレイフレー東北！フレイフレー益城！共に前進していきましょう！」というメッセージとともに、願いを込めた素敵なハッピードールを作ってくれました。





②8月3日／熊本県益城町 中央小児童クラブ  
「Happy Painting Project」の実施

避難所を併設する中央小学校の児童クラブ。定員以上の子どもたちの受入のため施設が満杯になり、ようやくプレハブが新設されたとのこと。元気いっぱいの65人の子どもたちと、窓ガラスや床面に思い切り絵を描き、熱気溢れるプログラムとなりました！





③8月4日／熊本県西原村 山西小学校学童クラブ  
「Happy Painting Project」の実施

震災からまもない5月、避難所だった時に訪れた山西小学校。現在は避難所は閉鎖されましたが、学童クラブからご要望をいただき、「風の子クラブ」「星の子クラブ」へプログラムをお届けしました。子どもたちの前に登場したのは子どもたちの身体よりはるかに大きな巨大塗り絵！子どもたちは500色の色鉛筆から自分の好きな色を真剣に選び、夢中で塗り続けていました。





④8月4日／熊本県益城町 広安小学校 あすなろ児童クラブ  
「Happy Doll Project」の実施

現在も避難所を併設する広安小学校の児童クラブでHappy Doll Projectを実施しました。自分のイメージをなんとか形にしたい！と妥協を許さない子どもたち。制作に没頭する姿に強い創作意欲を感じました。「子どもたちにとって初めての体験だらけでした！」と先生。Happy Dollの原点である病院の話に真剣に耳を傾け、「病院の子どもたちに見てもらいたい」と時間をかけて作った力作をプレゼントしてくれました。







⑤8月5日／熊本県益城町 総合体育館避難所  
「Happy Doll Project」の実施

益城町でもっとも大きい避難所、総合体育館で3回目のHappy Doll Projectを実施しました。避難者数は減り、避難所の様子も大きく変化していましたが、2か月前、3か月前に参加してくれた子どもたちとの再会がありました。「子どもの居場所や遊び場がない」とトレーラーハウスから避難所に遊びに来ていた家族も、町内には大規模な仮設住宅が目につくようになりましたが、今にも崩壊しそうな手つかずの被災建物も点在しています。



◎8月5日／熊本県益城町 広安小学校 さくらんぼクラブ  
「Happy Painting Project」の実施

避難所を併設する広安小学校の放課後児童クラブ。プールも使えず制限の多い生活を続けている子どもたち。のびのびとした体験をさせたい！という先生たちのリクエストに応え、屋外に設置した大型キャンバスで思い切り色遊びを楽しみました。体中を絵の具だらけにして夢中で色遊びを楽しんだ子どもたち。最後はとつともすっきりとした表情を見せ「楽しかったー！」と何度も繰り返し、嬉しい感想を伝えてくれました。



